

ワクチン接種は誰のため？ ～集団免疫という思いやり～

みなさんの多くは、高校3年生または中学1年生の時にMRワクチン（麻しん風しん混合ワクチン）を受けていますが、これ以外にも、インフルエンザ、水ぼうそう、おたふくかぜ、ポリオといったさまざまな感染症（うつる病気）の予防接種を受けている人が少なからずいます。何故、予防接種を受けるのでしょうか？もちろん「自分自身が感染症にならないようにするため」というのが第一の目的ですが、集団全体として感染症を流行させないようにする、「集団免疫」という大切な役割があります。

世の中にはいろいろな人がいる

世の中には、いろいろな人たちが暮らしています。赤ちゃんからお年寄りまで、さまざまな年代の人がいて、病気に対して抵抗力が強い人もいれば、病気にかかりやすい人や、病気にかかると重症になりやすい人もいます。感染症という病気にならないようにワクチンを受けるわけですが、ワクチンを受けても十分に免疫がつかない人や、受けたいけれどアレルギー体質のため受けられない人、副反応が心配で受けられない人もいます。このようないろいろな人たちがいる集団においては、病気に対して弱い人たちを周りのみんなで守ってあげることが大切です。

他人にうつさないことがとても大事

同じ病気にかかっても、重症度や後遺症などは人によって違います。例えば、百日咳という病気は、みなさんのような大学生の年代では重症になる例は少なく、長く咳

が続いているくらいのことが多いのですが、みなさんが赤ちゃんやお年寄りにうつしてしまうと、うつされた方はひどい呼吸困難を起こして死んでしまうこともあります。また、みなさんが風疹にかかっても、自分がそれほど大変な目に遭うことは稀ですが、妊娠している女性に風疹をうつしてしまうと、妊婦さんのお腹のなかにいる赤ちゃんに、先天性風疹症候群と呼ばれる心臓奇形などの重い障害が起こることがあります。このように、自分はたいしたことがなくても、他人にうつしてしまうと大変なことになる場合があります。感染症にかかってしまった時は、自分自身を早く治すことと同じくらいに、他人にうつさないことがとても大事なことです。他人にうつさないようにするには、どうすれば良いのでしょうか？一番良い方法は、自分がその感染症にかからないことです。病気にならないければ、他人にうつすこともありません。感染症にかからないようにするには、どうすれば良いのでしょうか？その方法の一つが、ワクチン接種です。

ワクチン接種は周りの人たちへの思いやり

多くの人がワクチン接種を受けることによって、感染症になる人の数が減り、病気をうつす機会もうつされる機会も減ることになります。「自分はワクチン接種をしたことがないけど、感染症にかかったこともない。」と言う人がいますが、それは、感染症の種類にもよりますが、予防接種が普及したおかげで感染症にかかる人が減り、うつされる機会が減っているおかげと考えることができます。このように、ワクチン接種を受けていない人も、実はワクチンの恩恵、集団免疫の恩恵を受けているのです。ワクチン接種を受けることは、自分自身が感染症なることを予防すると同時に、自分が他人に感染症をうつすことを予防することでもあります。赤ちゃんやお年寄り、免疫不全の人など、感染症に対して弱い人たちを、社会全体で守る思いやりと考えて、注射の針を刺される時はちょっと痛いですが、みんなが笑って暮らせるように、ちょっとだけ我慢してください。

(保健管理センター・所長・羽賀将衛 はがまさえ)

